

年間第14主日

第一朗読 イザヤ 66・10-14c

第二朗読 ガラテヤ 6・14-18

福音朗読 ルカ 10・1-12、17-20

2025.7.5 9:30 ミサ
カトリック高円寺教会
イエズス会 アン助祭

共同体の皆さん、現在わたしたちが生きるこの世界は、戦争や紛争によって深く引き裂かれています。クライナや中東をはじめ、世界の多くの場所で平和はなお遠く感じられます。そして、戦争や紛争だけでなく、わたしたちは日常生活においても多くの困難に直面しています。では、この混乱と苦しみに満ちた現実の中で、今日の典礼の言葉がわたしたちに何を語りかけているのでしょうか。

まず、第一朗読の預言者イザヤの言葉を聴くとき、わたしたちの心には「喜び」という言葉が深く響くことでしょう。イザヤは、すべての人々にこう呼びかけます。「エルサレムと共に喜び祝い、彼女のために喜び踊れ…。彼女と共に喜び楽しめ、彼女のために喪に服していたすべての人よ」（イザヤ 66・10）。この呼びかけは非常に特別なものです。それは、イスラエルの人々、そしてわたしたちすべてに対して、苦しみや混乱、絶望の中に生きる者たちを神が慰め、支えてくださるという希望を開くからです。神は常に民と共におられ、決して見捨てることはないということを、この呼びかけはわたしたちに教えてくれます。どんな困難な状況にあっても、神は必ず希望の道を開いてくださるのです。

さらに預言者イザヤはこう続けます。「見よ、わたしは彼女に向けよう 平和を大河のように、国々の栄えを洪水の流れのように」（イザヤ 66・12）。ここでは、平和が喜びとともに神から与えられる贈り物であり、人間の力では生み出せないことが語られています。そして、この恵みを通して、わたしたちは人生の困難を乗り越え、力強く歩むことができるのです。

復活したイエスが弟子たちに現れたとき、最初に語った言葉は「あなたがたに平和があるように」（ヨハネ 20・19）でした。今日の福音でも、弟子たちが福音宣教のために遣わされるとき、最初に語るべき言葉は「この家に平和があるよ

うに」(ルカ 10・5)と教えられました。また、「財布も袋も履物も持って行く
てはならない。途中でだれにも挨拶をしてはいけない」(ルカ 10・4)というこ
とをイエスは弟子たちに命じられました。

しかし、この教えは何を意味するのでしょうか。それは、弟子たちが持っている
もの——金、財産、才能、知恵——に頼るのではなく、完全に神に信頼し、自
分自身と出会った人々を神の恵みに委ねるべきだということです。平和と喜び
は、わたしたちが自分の力で生み出すものではなく、神から与えられる恵みな
のです。そして、この平和と喜びこそが、今の世界で最も求められているものだ
ということをわたしたちは忘れてはいけません。

皆さん、神は御子イエス・キリストを通して、わたしたちに真の平和と喜びを
与えてくださいました。イエスは、確かにそれらのために、十字架上で命を捧げ、
わたしたちに平和と喜びをもたらしました。だからこそ、第二朗読にあるように、
聖パウロは「わたしには、わたしたちの主イエス・キリストの十字架のほかに、
誇るものは決してない」(ガラテヤ 6・14)と語りました。多くの人々にとって
イエスの十字架は避けるべきものですが、パウロはその十字架の中に誇りと希
望、そして平和を見いだしました。そのために、彼は自分のすべてを捧げ、イエ
スの十字架と一つになり、イエスの焼き印を身に受ける覚悟を持っていたので
す。このように、パウロを通して、神は最初の異邦人共同体に平和と喜びを授け
てくださいました。

皆さん、今日の典礼の言葉を通して、わたしたちは、苦しみや困難に包まれて
いても、神の喜びと希望を生き、証しするように招かれています。この招きは、
今年の「希望の聖年」にも深く結びついています。希望を生きるとは、どんな状
況の中でも、神が常にわたしたちを愛し、共にいてくださることを信じて歩むこ
とです。神こそがわたしたちの希望の源です。

では、その希望をどう育むべきでしょうか。それは、パウロのように、どん
なときも十字架のキリストを見上げることです。イエスの十字架こそが、わた
したちの希望が生まれた場所であり、そこに注がれたイエスの愛が、今もわた
したちを新しくしてくださいます。今年の聖年を迎える際に全教会が抱く確信のよ
うに、わたしたちが人生のあらゆる出来事においてキリストと一つになるとき、

わたしたちはまず家族に、次に教会、社会、そして全世界に真の喜びと平和をもたらす神の道具となることでしょう。

今日のミサの中で、わたしたちは互いのために祈りましょう。わたしたちが日々の生活の中で神の喜びと希望を深く体験し、それを証ししていくことができますように。

聖母マリア、どうかわたしたちのために取り次いでください。アーメン。

ミサ説教はカトリック高円寺教会ホームページの「ミサ説教」のページにも掲載されています。

PC <http://www.koenji-catholic.jp/cgi-bin/wiki/wiki.cgi>

携帯 <http://www.koenji-catholic.jp/mobile/>